

## 柏崎の市街地に近いブナ林の新発見

佐藤俊男

柏崎の植生図に記録されていない立派なブナ林が、市街地の極く近くで発見されたので紹介したい。

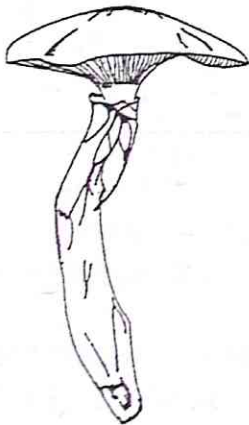
発見者は、当地の植物研究の第一人者で、柏崎市立新道小学校長の布施公幹氏であり、この朗報を聞いて、植物研究家の市立第三中学校長相沢陽一氏、柏崎森林組合長石田巳代志市議が現地を訪れ、その貴重さを確認し、新発見の折紙をつけた。ブナ林は、市内黒滝・長泉寺の裏山から15分ほど歩いた通称「袖山」と集落の人達が呼んでいるところにあり、立地は緩くて広い沢沿いの斜面にあった。布施氏は「キノコの調査に山へ入って偶然見つけたのです。」というが、抱きかかえても手が届かない胸高直径60cmの大木3-4本と、30cmほどのもの40本がまとまって樹林を形成し、樹勢さかんで、生々たる様相を呈していた。このブナ林の貴重な所以は、まず第一に市街地に最も近くにあること、第二に標高約180mの低地にあることにあるでしょう。

柏崎地方のブナ林は、米山、黒姫の標高500m以上のところに大規模な群落を見ることができるが、標高100-200mの低地のものは野田の小村峠、鶴川の市野新田、南鯖石の大沢（標高90m）などに点在する。

今回発見されたブナ林は、樹令百年以上で堂々と枝を張った大木約10本、樹令50年ほどの約40本、それらの間の若木とで構成されている。林の中に種子が芽生え幼木が育ち、自然に少しずつ時間をかけて変る樹林のたたずまいに「人間が手を付けない限り、まちがいなく林として形成され続けて行くでしょう。」と布施氏は言っている。このブナ林の手前100mには、県林業公社が4年がかりで切り開いてきた林道3kmが伸び、自然の林は少なくなってきている。

布施氏は「身近かな自然の森で森林浴ができるなら素晴らしいことです。近くまで伐採が進んでいる今、何とかしてこのブナ林を護ってほしい。人間の暮らしとともに続いた一万年以上にわたる歴史を秘めたブナ林を切ったら、二度と自然林には戻らないのです。」と願いをこめて語っている。

今回は、地元柏崎日報に掲載された記事をもとに紹介させていただきました。（さとう としお 柏崎市立博物館）



モミクケ（食）

秋 針葉樹（県内ではモミヤアカ松の混生樹林）の林内に生える菌根菌。  
形態 カサ径10~20cm半球形~丸山形、表面に白~淡灰褐色でわずかに粘性あり。ヒゲは白~淡黄色。垂生。クキは地中にもぐっている。



柏崎市街地のブナ